

2021 年度年報発行にあたって

公益財団法人泉屋博古館の 2021 年度年報をお届けします。

泉屋博古館は、住友家が収集した美術品の寄贈を受け、昭和 35 年（1960）に財団法人として設立されました。現在、京都東山の麓鹿ヶ谷に立地する泉屋博古館（本館）と、東京六本木の住友家麻布別邸跡地庭園を臨む泉屋博古館東京（東京館）におきまして、保存、調査研究、公開の各事業をおこなっております。

2021 年は、前年に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大により、文化芸術活動において様々な制約を受けた 1 年となりました。京都本館では、5 月に春季展覧会の一時休止（およそ 2 週間）を余儀なくされ、また開催を予定しておりましたイベントを中止・縮小するなど、美術鑑賞の場をお求めの皆様に大変ご迷惑をおかけすることとなりました。このような状況下ではございましたが、9 月から感染拡大防止対策を徹底しながら、新たな展覧会プロジェクトを開始いたしました。中国古代青銅器を源流として現代にまで繋がる金工芸術の普及と振興を目的とする「泉屋ビエンナーレ」です。開幕当初は蔓延防止等重点措置が発令されておりましたが、併催いたしました企画展覧会ともども、無事に多くの来館者にご観覧いただくことができませんでした。感染症拡大防止対策に快くご協力くださいました皆様に厚く御礼申し上げます。

また、東京館はおかげさまで 2021 年夏に予定通り改修・増築工事を完了いたしました。小規模ながら多様な展示空間を増設するとともに、各種講座やワークショップを開催するための講堂を設置し、より充実した美術館活動を展開できる環境を整えました。開館 20 周年にあたる 2022 年 3 月にリニューアルオープン、そして 23 年にかけて 4 回に分けた記念展覧会のほか創意を凝らした特別展も予定しております。

コロナ禍の制約が多いなかで、京都本館の各展覧会にご協力、ご支援くださいました関係者の皆様、そして東京館の改修増築工事にご尽力くださいました関係者の皆様に改めまして厚く御礼申し上げます。今後も住友グループの文化・社会貢献活動の一翼を担う存在として、積極的な美術館活動を展開してまいりたく、引き続きのご支援、ご指導を何卒よろしくお願い申し上げます。

公益財団法人 泉屋博古館

理事長 奥 正 之



ビジュアル・アイデンティティ（VI）の制定

2020年の財団設立60周年、および2022年の泉屋博古館東京20周年・リニューアルオープンを契機として、第三者による客観的な分析を行い、泉屋博古館の存在意義や価値の再認識を行った。その分析をもとに、将来にわたり活動の道しるべとなるよう、住友コレクションを有する「泉屋博古館」という共通のアイデンティティを表すシンボルマークと、各館のロゴタイプとの組み合わせによるビジュアル・アイデンティティ（VI）を制定した。2021年8月のウェブサイト刷新時に発表した。

【ロゴタイプの制定】

泉屋博古館（本館）、泉屋博古館東京（東京館）のロゴタイプを下記の通り制定した。

泉屋博古館

SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM

泉屋博古館（本館）ロゴ

泉屋博古館東京

SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM TOKYO

泉屋博古館東京ロゴ

【シンボルマークの制定】

当館のシンボルマークを右の通り制定した。

このシンボルマークは「泉」をイメージしている。当館の名称は、銅の製錬業を営んでいた住友家が江戸時代に用いた屋号「泉屋（いずみや）」にちなむもので、これまで「泉」は住友を象徴する語として用いられてきた。



「泉」という文字の歴史をひもとくと、当館コレクションを代表する中国古代青銅器に記された文字＝金文にたどりつく。

その形はまさに岩穴から水が湧き、広く流れでる様子をかたどっている。

泉から湧き出た水がやがては大河をなすように、当館の活動が広く文化の発展に資して訪れる人の日常に豊かな光彩を添えるといったイメージをそこに重ねている。

古代の造形を継承したおおらかで力強いフォルムは、太古から連なる深遠な歴史の語り部として、さらに金色の円形は創造性ゆたかな新しい文化の発信地として――

このマークは多くの方々にとってそのような存在でありたいとする当館の思いをあらわしている。

開館 60 周年記念事業の実施

2020年に公益財団法人泉屋博古館は、財団設立60周年（本館青銅器館開館50周年）を迎えた。当館ではこの機会に、これまでの活動をふりかえりながら、今後のさらなる博物館活動の充実を図ることを目的として、以下の記念事業を企画、実施した。

【10年史の刊行】

2011年から2020年の10年間の活動を記録した『公益財団法人泉屋博古館10年史 2011年—2020年の活動記録』を刊行した。当館では財団設立50年にあたる2010年に『泉屋博古館50年史』として創設から50年の活動記録をまとめた。本書はそれ以降の活動をまとめたものである。記録編纂にあたっては、2010年に公益財団法人に認定されて以降、多様化した美術館活動をできる限り網羅的に掲載することを目指した。



【泉屋ビエンナーレの開催】

「泉屋ビエンナーレ」は、住友コレクションの中核をなす青銅器の存在と魅力を現代に活かすべく、ヴァリエーション豊かな金属工芸の魅力を紹介するとともに、現代金工作家の創作活動を支援することを目的として企画した。

テーマは、「現代の人（作家）が古代青銅器を見て感じたことをそのまま形にあらわすとするのかを問いかけ、鑄金作品の新たな見方を提供する」ことである。現代鑄金作家に、中国古代青銅器からインスピレーションを受けた作品の制作を依頼し、それらを中国古代青銅器の展示空間のなかで披露する。古代と現代という時空を超えた創作の出会いを通して、新たな金属工芸の魅力を発信するものである。

2021年9月に第1回の展覧会を開催し、以降、隔年での継続を目指している。第1回目の「泉屋ビエンナーレ2021」については、次頁以降の公開事業報告中で記載する。

泉屋ビエンナーレ 2021 Re-sonation ひびきあう聲

会期：9月11日～10月24日／11月6日～12月12日

9名の現代鑄金作家に制作を依頼し、青銅器館第4展示室にて実施した。展示では、古代青銅器からインスピレーションを受けた依頼作品10点のほか、各作家の紹介を兼ねてこれまでに制作された作品を併せて披露した。

(主催：公益財団法人泉屋博古館、住友グループ各社、京都新聞)



展示風景

【図録の刊行および映像コンテンツの公開】

展覧会に併せて、図録『泉屋ビエンナーレ 2021 Re-sonation ひびきあう聲』（1,500部）を刊行した。また泉屋ビエンナーレ 2021の内容や作家の作品制作過程を紹介する映像コンテンツを作成し、会場およびウェブサイト上で公開した。



図録



映像コンテンツ

関連催事

・特別披露会（本館講堂）

10月1日（49名）出陳作家4名（梶浦聖子氏、巽水幸氏、中西紗和氏、平戸香菜氏）

美術関係者などを対象として、出陳作家による作品紹介、鑄造作品制作に関する作家と展覧会担当者との対談を実施。



対談風景

・ワークショップ（本館講堂）

出陳作家を講師として招き、一般を対象とする鑄造体験ワークショップを開催した。

10月2日（19名）「錫皿をつくろう」

講師：平戸香菜氏 補助講師：中西紗和氏、梶浦聖子氏

錫製の皿造りを通して鑄造の工程を体験するワークショップ。自身の手でデザインをほどこしオリジナリティのある錫皿を制作。



11月21日（31名）「イカ骨"で"つくろう」

講師：梶浦聖子氏 補助講師：佐治真理子氏、中西紗和氏、山下真守美氏

乾燥させたコウイカの骨を鑄型にして鑄造を体験するワークショップ。簡便な素材を用いて

参加者自身が鑄型を作成する醍醐味を味わった。



* 9月25日実施予定「メダルをつくろう」（講師：佐治真理子氏）および9月26日実施予定「イカ骨"で"つくろう」（講師：梶浦聖子氏ほか）は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した。

中国青銅器の時代

会期：企画展覧会と同時開催

世界有数と称される住友コレクションの中国青銅器の魅力を、4つのテーマ展示にわたって紹介した。

【第1展示室】

青銅器名品選 いにしへの造形美

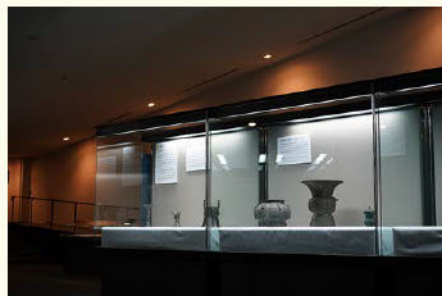
住友コレクションのなかでも選りすぐりの名品を展示し、中国青銅文化の精華を示す。



【第2展示室】

青銅器の種類・用途 豪華な道具たち

商周時代に生み出された様々な青銅器の種類に着目し、その機能や多様性をわかりやすく紹介する。



【第3展示室】

3月13日～5月16日（4月25日～5月11日は臨時休館）
6月5日～7月19日

青銅器の文様 ー神秘のデザイナーー

前半部分は青銅器の文様、後半部分は金文に焦点を当て、鑄造実験による研究成果も交えながら紹介する展示。



9月11日～10月24日
11月6日～12月12日

中国古代の説話と文様

中国青銅器や銅鏡にあらわれるモチーフと、その背景となった古代の説話を紹介する展示。



【第4展示室】

3月13日～5月16日（4月25日～5月11日は臨時休館）
6月5日～7月19日

青銅文化の展開

銅鏡やに中国中近世の銅器を中心に展示し、
漢代以降の青銅文化の展開をあとづける。

9月11日～10月24日
11月6日～12月12日



泉屋ビエンナーレ 2021 Re-sonation ひびきあう聲

関連催事

・スライド列品解説（本館講堂）

「中国青銅器の時代 / 泉屋ビエンナーレ 2021
Re-sonation ひびきあう聲」

9月19日（33名）
山本 充（本館学芸員）



青銅器展示および泉屋ビエンナーレ 2021 のライブ発信

KBS 京都放送 生番組で放送

「きらきん！」（毎週金曜日 12:53～14:25）
にて中国青銅器の時代・泉屋ビエンナーレの
二展覧会を生放送で紹介（9月24日）。

ビエンナーレ出陳作家によるインスタライブ配信

11月20日閉館後、翌日のワークショップ（5頁
参照）講師陣が泉屋ビエンナーレの各作品と古代
青銅器を紹介。



特別展 鑄物・モダン — 花を彩る銅のうつわ —

会期：3月13日～4月24日／5月12日～5月16日 ※

館蔵の中国銅花器と、富山大学所蔵の銅花器（大郷理明コレクション）および須賀松園作品を中心に、多彩な発展を遂げた日本近代の銅花器の数々を紹介した。

文化庁 AFF 補助事業。（主催：公益財団法人泉屋博古館、富山大学芸術文化学部、京都新聞）



展示風景

※新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言発出により、4月25日～5月11日の期間を休館した。その後、京都府の休業要請が一部緩和されたことを受け、企画展示室の入室数に制限を定め最大40名として、5月12日より再開した。

関連催事

・連続講演（本館講堂）

第1回 3月27日（24名）

「銅花器の源流 — 中国銅花器の系譜」 廣川守（館長）

近代日本の青銅文化にも継承された中国殷周青銅器とその模倣の歴史を実証的に紹介。

第2回 4月3日（24名）

「日本に銅花器がやってきた
— 先人たちの銅と花がある暮らし」
竹嶋康平（本館学芸員）

日本での銅花器受容の場として仏教儀礼と茶会に着目、近世までの銅花器鑑賞の流れを概観。



連続講演（上：廣川、下：竹嶋）

第3回 4月10日 (34名)

「いけばなど近代青銅花器
ー大郷コレクションの寸筒・薄端・水盤ー

三宮千佳氏 (富山大学学術研究部芸術文化学系准教授)
本展の主催者による、富山大学所蔵の大郷コレクションに
ついての最新の研究成果の解説。



第4回 4月17日 (34名)

「人類が極めた蠟型鑄造法 ーロウと炎と青銅の技」

三船温尚氏 (前 富山大学学術研究部芸術文化学系教授)
本展の主催者 (監修者) による、鑄造技法の観点からの
本展展示作品の具体的な解説。



連続講演 (上: 三宮氏、下: 三船氏)

・アートサロン (本館講堂)

4月24日 (15名)

「銅花器をめぐる東アジア三千年の伝統」

パネリスト 三船温尚氏、三宮千佳氏、廣川守
コーディネーター 竹嶋康平

看過されてきた近代日本銅花器の史的位置付けを、
様式、鑑賞法、鑄造技法など多角的な観点から試みた。



アートサロン (竹嶋、廣川、三船氏、三宮氏)

・華道家 大郷理明氏による関連展示

(本館青銅器館ロビー)

富山大学所蔵銅花器の寄贈者による華道インスタレーション。
会期中3回行った。



* 4月25日実施予定のワークショップ「ロウで作品を作ろう ー鑄型づくりから鑄造まで」

(講師: 三船温尚氏) は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した。



展覧会に併せて、図録『鑄物・モダン ー花を彩る銅のうつわー』2,300部を刊行した。

特別展 ゆかた 浴衣 YUKATA すずしさのデザイン、いまむかし
会期：6月5日 - 7月19日

ゆかたの原点となる江戸期の「湯帷子」から昭和期の重要無形文化財保持者によるゆかたまで体系的に紹介。あわせて伊勢型紙の技術と継承に関する東京文化財研究所との共同調査の成果を展示・シンポジウムにて報告した。

文化庁 AFF 補助事業。

(主催：公益財団法人泉屋博古館、朝日新聞社、京都新聞)



展示風景



巡回展『ゆかた 浴衣 YUKATA』公式図録（2018年イデップ発行）。
2019年分館（現・東京館）開催時と共通。

関連催事

・特別講演会（本館講堂）

6月27日（58名）

「ゆかた 一夏の楽しみ・くつろぎの美」

長崎巖氏（共立女子大学教授・同博物館長）

展覧会監修者による講演。ゆかたの成立と展開を体系的視点で概説、展覧会の見所も紹介。



特別講演会（長崎氏）

・無形文化遺産〔伝統技術〕の伝承に関する研究会IV「型紙と型染」（本館講堂）

主催：東京文化財研究所、泉屋博古館

〔シンポジウム〕7月3日（51名）

①基調講演

「型紙・型染をめぐる無形文化財の保護」

生田ゆき氏（文化庁・伊勢型紙研究者）

②座談会

「型紙・型染の継承における現状と課題」

生田ゆき氏（文化庁・伊勢型紙研究者）

内田勲氏（伊勢型紙技術保存会会長・型彫り師）

松原伸生氏（染色家・長板中形）

司会：菊池理予氏（東京文化財研究所）

森下愛子（東京館学芸員）

ゆかたなど型染めに欠かせない伊勢型紙制作の現状と課題を型彫り師、使用する染色作家、研究者それぞれの立場から発表、討議。東京文化財研究所との数年にわたる共同調査の成果。

〔エクスカッション〕7月4日（45名）

③スライドトーク

「型からみるゆかた展」

生田ゆき氏（文化庁・伊勢型紙研究者）

伊勢型紙研究の第一人者として、展覧会に出品された型紙から産地、技術、意匠の特徴をわかりやすく解説。



座談会（生田氏、内田氏、松原氏、菊池氏、森下）



スライドトーク（生田氏）

・作品解説（本館講堂）

7月10日（40名）

森下愛子（東京館学芸員）

* 6月19日実施予定の作品解説（講師：森下愛子）は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した。



作品解説（森下）

木島櫻谷 四季の金屏風 一京都画壇とともに－
会期：9月11日－10月24日

近代京都画壇の重鎮 木島櫻谷が、住友家からの
依頼で制作した四季にわたる花木図屏風を中心に、
新収品をもまじえ、明治期の京都画壇の作家の作品と
ともに展観、その影響などを探った。

(主催：公益財団法人泉屋博古館、京都新聞)



木島櫻谷《四季の金屏風》四双を一挙展示。
本館における初の試み。



展示風景

関連催事

・スペシャル・トーク（本館企画展示室）

10月9日（22名）

「京の暮らしと屏風の美」

杉本歌子氏（奈良屋記念杉本家保存会学芸部長）

伝統建築の室礼としての屏風の美と楽しみを解説。LEDキャンドルでの鑑賞体験も行った。



スペシャル・トーク（杉本氏）



LEDキャンドルでの鑑賞体験

・オウコク・トーク！（本館講堂）

9月18日（39名）

「京のまちが育てた櫻谷ーその交流と美意識」

実方葉子（学芸部長）

9月28日（45名）

「京都日本画のオウコク」

野地耕一郎（東京館館長）

10月13日（39名）

「素材と技法から読み解く櫻谷の屏風」

実方葉子（学芸部長）



オウコク・トーク！（実方）



オウコク・トーク！（野地）



オウコク・トーク！（実方）

伝世の茶道具 ー珠玉の住友コレクションー

会期：11月6日 - 12月12日

かねてから茶人の中で名品として評価されてきた茶道具に加え、近年の調査で明らかになった江戸期以来の住友家伝来品を初公開し、上方を拠点とした歴代住友家当主の収集の歴史や交遊を辿った。

(主催：公益財団法人泉屋博古館、日本経済新聞社、
京都新聞)



展示風景



展覧会に併せて、館蔵品図録『泉屋博古 茶道具』2,000部を刊行した。

関連催事

・特別講演会（本館講堂）

第一回 11月7日（41名）

「住友コレクションの茶杓・竹花入」

池田瓢阿氏（竹芸家）

日本を代表する竹芸家による講演。
制作者ならではのわかりやすい技法解説も交えながら
茶杓・竹花入の見どころを紹介。



特別講演会（池田氏）

第二回 11月27日（37名）

「住友コレクションの茶の湯釜」

新郷英弘氏（芦屋釜の里学芸員）

茶の湯釜研究の第一人者による講演。
茶の湯釜の歴史、造形的特徴に加え、鑄造技法や
修復技術まで盛り込みながら解説。



特別講演会（新郷氏）

・オンラインサテライトイベント（本館講堂）

11月23日（34名）

「泉屋博古館の袋修復に携わって」

三浦和子氏（袋師）

東京館講堂で開催の講演会（25頁参照）を本館へ
中継。



サテライトイベント（三浦氏）本館講堂会場風景

・スライドトーク（本館講堂）

11月28日（28名） 森下愛子（東京館学芸員）

12月5日（38名） 竹嶋康平（本館学芸員）



スライドトーク（森下）



スライドトーク（竹嶋）

2022年度の主な調査研究事業

1. 泉屋博古館紀要の執筆・編集

『泉屋博古館紀要』第37巻の執筆と編集作業を行った
(2021年12月刊行)。

小南一郎(名誉館長)論文、
新郷英弘氏・樋口陽介氏(ともに芦屋釜の里)
・廣川守(館長)・森下愛子(東京館学芸員)論文、
廣川守・村山順一郎(前本館上席研究員)論文、
椎野晃史(東京館学芸員)論文の合計4編を掲載。



『泉屋博古館紀要』第37巻

2. 館藏品基礎調査研究

「館蔵日本中世末近世初頭銅銭の蛍光X線分析調査」(廣川・村山)

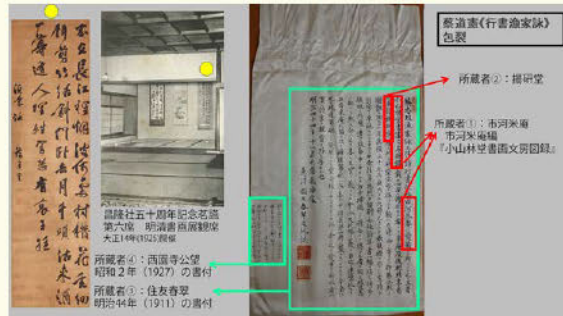
室町時代から江戸時代初頭にかけて日本で
铸造された銅銭の蛍光X線分析調査の
結果を報告した。中国宋銭及び寛永通寶の
分析データと比較しながら、当該期の銅銭
の材質特性を検討した。

(『泉屋博古館紀要』第37巻掲載)



「館蔵文房具及び煎茶道具の基礎資料研究」(竹嶋)

前年に続き館蔵の中国文房具について基礎的な研究を行った。
さらに過去の煎茶会記録を手がかりに近代における文房具の鑑賞法について考察した。



「青銅器館建築に関する基礎資料整理」(竹嶋)

竣工 50 年を経過した青銅器館に関して、設計図面等の資料のデジタル化を継続した。また、1970 年大阪万博前後の関西戦後モダニズム建築の代表的作例として青銅器館を位置付ける試論を執筆した。

「館蔵日本画及び洋画の基礎研究」(椎野)

館蔵の日本画及び洋画に関して、同時代資料の収集を行い、展覧会出品歴等の基礎情報を確認した。2021 年度に新しく収蔵された安藤広近について資料を収集し、作品ならびに作者の史的位置を検討した。

(『泉屋博古館紀要』第 37 巻掲載)



「美術品収集経緯研究」(全員)

継続実施している明治大正期住友家美術品収集経緯の研究について、昭和期の購入資料の検討とデータベース化を進めた。

3. 専門研究 (館藏品関連分野)

「中国初期王朝時代の政治と文化」(小南)

中国初期王朝時代(二里头文化から秦漢帝國の成立までの時期)の制度や文化について、主として出土文物を資料にして、その特質を検討する。その成果の一部を論文にまとめ、「祖霊と穀霊 — 中国墓葬中の倉庫模型を中心に(下)」として『泉屋博古館紀要』第 37 巻に載せた。



また「殷墟卜辞と商の王権」と題する論文を、国際日本文化研究センターへ提出、研究報告論文集として出版の予定。

「中国近世の文芸と民衆信仰」(小南)

中国近世の民衆文芸を通して、庶民信仰と生活倫理(孝の觀念など)の特質を探求する。その成果の一部を「目連戯 — 舞台上の活化石」にまとめ、説話・伝承学会大会で報告。学会紀要に掲載の予定。

「春秋戦国時代青銅器の生産と流通に関する複合的研究」(山本)

春秋戦国時代の各地域に見られる青銅彝器の特徴を、紋様系統や鑄造技術上の痕跡などの検討を通じて明らかとし、当時における青銅器の生産・流通の実態解明を目的とする研究。

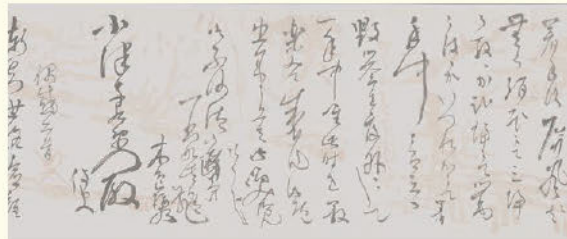
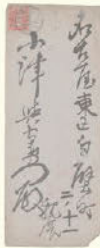
(日本学術振興会科学研究費補助金採択課題 19K13411)



4. 他研究機関との共同調査研究

「木鳥櫻谷の調査研究」(実方)

櫻谷文庫所蔵資料のうち、引き続き櫻谷宛書簡のデータベース化を同文庫と共同で進め、主要支援者の小津与右衛門との書簡を分析した(「小津与右衛門への手紙」福田美術館『木鳥櫻谷』展図録)。山水画調査も実施。



「日本茶道文化史における中国金工品の受容と展開」(山本)

茶の湯の文脈で用いられた中国金工品の鑄造技術を明らかとし、唐物受容の新たな側面を探る研究。本年度は根津美術館、野村美術館にて資料実見調査を実施。(茶道資料館・芦屋釜の里との三者協定締結、共同調査の実施)

「近代染織史の基礎資料研究」(森下)

館蔵の染織作品を基本資料として、近代の染織品における様式変遷ならびに技法を比較する。東京文化財研究所無形文化遺産部と共同研究を行う。2021年特別展「ゆかた 浴衣 YUKATA」展にて、伊勢型紙、長板中形をテーマに、無形文化遺産「伝統技術」の伝承に関する研究会Ⅳ「型紙と型染」を実施した(11頁参照)。

2021 年度の美術品収集

1. 美術品受贈

以下2点の作品を受贈した。

三浦梧門《山水図》 幕末
(住友林業株式会社様ご寄贈)



三浦梧門《山水図》

木島櫻谷《月図》 昭和
(今尾景之様ご寄贈)



木島櫻谷《月図》

2. 美術品購入

下記9点の作品を購入した。

- 安藤広近《文殊菩薩》 明治20年
- 木島櫻谷《婦農図》 明治時代
- 木島櫻谷《唐美人》 大正時代
- 幹山伝七《色絵花鳥文花瓶》 明治時代
- 幹山伝七《色絵花鳥文筒形花瓶》 明治時代
- 初代伊東陶山《色絵花鳥文カップ&ソーサー、菓子皿》 明治時代
- 沼田一雅《鶏》 明治時代
- 沼田一雅《鶴》 明治時代
- 沼田一雅《虎》 明治時代



安藤広近《文殊菩薩》



木島櫻谷《帰農図》



木島櫻谷《唐美人》



幹山伝七《色絵花鳥文花瓶》



幹山伝七《色絵花鳥文筒形花瓶》



沼田一雅《鶏》



沼田一雅《鶴》



初代伊東陶山《色絵花鳥文カップ&ソーサー》《菓子皿》



沼田一雅《虎》

2021 年度の美術品修復

1. 絵画

・橋本雅邦《深山猛虎図》

解体修理により、本紙損傷部分の補修ならびに折れの原因となっている裏打紙の除去、欠損部の補填、表装裂の新調等を行った。2020 年より 2 カ年事業の最終年。
2,662 千円（総額 3,300 千円）。



《深山猛虎図》（修復前）



《深山猛虎図》（修復後）

・パブロ・ピカソ《泉》

額の劣化により画面の固定が不安定になったため、スペーサーや裏板等を新たに取付けた（62 千円）。

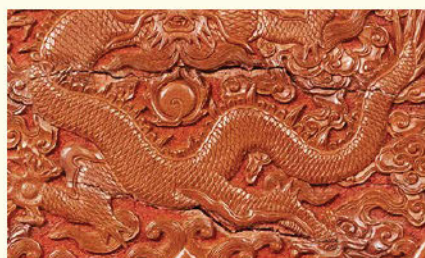


パブロ・ピカソ《泉》額裏（修復後）

2. 漆工

- ・《龍図堆黄盆》
- ・《双龍図堆黄長方盆》

3カ年事業の最終年。先年までの修復箇所を一定の温湿度下で安定させた。
収納箱の修繕も実施。2021年6月に事業完了。336千円（総額3,102千円）。



《龍図堆黄盆》（修復前）
全面にわたって大きな亀裂が走り、
極めて深刻な状態にあった。



《龍図堆黄盆》（修復後）

3. 茶道具

- ・《小井戸茶碗 銘 六地藏》御物袋の新規制作

《小井戸茶碗 銘 六地藏》は、茶碗を納める付属品の仕覆も貴重な紅毛裂で作られている。近年、裂地の劣化が激しく、茶碗を納める度に劣化が進行するため、館蔵の茶道具の仕覆とほぼ同様の縮緬で御物袋を作成。長緒は草木染めで染めた（250千円）。



《小井戸茶碗 銘 六地藏》仕覆（紅毛裂）



御物袋（新調）

・《唐物鶴の子茶入 銘 漱芳》仕覆修復

《唐物鶴の子茶入 銘 漱芳》の仕覆のうち、「輪違緞子」は裏地の劣化と共に表地がはがれ劣化が進行するため、金襴を部分的に裏打ちし、御朱印切の欠損部分を補った。もとの短縮を使用するため、つがりを同色に染め作成した（300千円）。



仕覆（修復前）



仕覆（修復後）

・茶の湯釜、風炉の修復

福岡県・芦屋釜の里にて修復を行った（共箱の修理を含む）。1例として《鉄風炉》は内部の灰の除去、及び銅板の取り外し、剥離サビの除去を行い、中心付近の穴を金漆（漆、鉄粉、砥粉等の混練物）にて補完した。外面は、剥離サビの除去、底部の穴を金漆にて補完。その後、時代の雰囲気を残しながら部分的に漆の焼き付け塗装を行った。箱については、棧の外れ、底板の割れ等、保管に耐えるように強度を高めた（芦屋釜の里との連携事業）。



《鉄風炉》（修復前）



《鉄風炉》（修復後）

4. その他

・取納箱の修理、掛軸掛緒小修繕（220千円）。

2021年度の収蔵品貸出

《藤棚蒔絵十種香箱》《源氏車夕顔蒔絵太鼓胴 銘 玉の尾》《紅茶段卍字繫鉄線藤模様唐織》
《白紫段海松貝入子菱繫唐花模様厚板》、原羊遊斎《椿蒔絵棗》、酒井抱一《椿蒔絵棗書状》
(いずれも東京館)

特別展「日本人と自然 - 能楽と日本美術 -」(国立能楽堂1階資料展示室:2021年4月7日~6月27日)

《広形銅矛》(本館所蔵、九州国立博物館へ寄託中)

特別展「歴史教科書でみる考古名品」(大野城心のふるさと館3階企画展示室:2021年4月29日~
6月20日)

高鳳翰《書画帖》、華岳《鵬拳図》、辺寿民《芦雁図》、辺寿民《芦雁図》、袁耀《真山水図》
(いずれも本館)

特別展「揚州八怪」(大阪市立美術館:2021年6月12日~8月15日)

《戈卣》、《象文兕觥》、《亜吳觚》、《醉客図巻》(いずれも本館)

特別展「天之美祿 酒の美術」(大和文華館:2021年10月9日~11月14日)

《丸銅(別子産銅丸形文鎮)》1件2点

特別展「海幸山幸 - 祈りと恵みの風景 -」(九州国立博物館 特別展示室:2021年10月9日~12月5日)

木島櫻谷《竹林白鶴》《秋草図》《幽溪秋色》(いずれも東京館)

「木島櫻谷 究めて魅せた「おうこくさん」」(福田美術館:2021年10月23日~2022年1月10日)

彭城百川《梅図屏風》、十時梅屋《十便十宜帖》

特別展「大雅と蕪村 - 文人画の大成者 -」(名古屋市博物館:2021年12月4日~2022年1月30日)

泉屋博古館東京 休館中の活動

休館中の文化活動として、建物竣工後より館内施設を活用し、リニューアルプレイベント「カフェミュージックコンサート」、「講演会 泉屋博古館の袋修復に携わって」、「鑄造ワークショップ 古印をつくろう」を開催した。

・カフェミュージックコンサート（東京館ホール）

10月6日（18名）

アコーディオン演奏

岩城里江子氏（アコーディオン奏者）

東京館リニューアルプレイベント第1弾。

ホールにてアコーディオンのコンサートを実施。

ARK Hills Music Week 2021 参加。



カフェミュージックコンサート（岩城氏）

・講演会（東京館講堂）

11月23日（34名）

「泉屋博古館の袋修復に携わって」

三浦和子氏（袋師）

本館「伝世の茶道具」展の関連イベントとして開催。茶道具の袋と裂、展示作品の仕覆等の修復についてスライドを用い解説。

本館講堂にもリモートで中継、34名が聴講した（計68名、15頁参照）。



講演会（三浦氏）

・鑄造ワークショップ（東京館講堂）

12月11日（29名）・12月12日（27名）計56名

「古印をつくろう」

新郷英弘氏（芦屋釜の里学芸員）、樋口陽介氏（鋳物師）、堀内快氏（芦屋釜の里鋳物師養成員）

東京館プレイベント第3弾として好評を博している鑄造ワークショップを開催。

青銅器制作技法になぞらえた制作体験のワークショップ。男女問わず、幅広い世代の参加があった。



ワークショップ（樋口氏、堀内氏、新郷氏）

【休館中の東京館收藏品活用】

・福岡県芦屋釜の里との茶の湯釜作品寄託を通じた活動の連携

改修工事にとまなう休館期間、東京館所蔵の茶の湯釜および風炉作品計 61 件を、福岡県の芦屋釜の里に寄託した。両館で締結した「共同研究及び公開に関する協定書」に基づき、寄託期間中は調査研究に併せて修理・メンテナンスを行うほか、芦屋釜の里内の展示施設にて公開した。2021 年度の活動の状況は下記の通りである。

釜本体や作品の保存箱の状態確認、修復

- 釜・風炉本体 修復着手件数 32 件
- 保存箱および箱紐の修理・新調 6 件

展示会の開催

町制施行 130 周年記念特別展

「重要文化財指定芦屋釜新収蔵記念 ～芦屋から始まる茶の湯釜、600 年の系譜～」

町制施行 130 周年及び重要文化財指定芦屋釜の新収蔵を記念し、芦屋釜の里において特別展を実施。新収蔵の芦屋釜の初公開と芦屋釜の里事業の周知を図る。あわせて、住友コレクションの茶の湯釜・風炉の名品を 18 件展示。



展示風景（芦屋釜の里資料館）

・神戸市立小磯記念美術館へ洋画の貸出、展示協力

特別展「住友コレクション名品選 ―フランスと日本近代洋画展」

9月4日～11月14日 主催：神戸市立小磯記念美術館、神戸新聞社

2021 年度外部機関協力・広報

1. 職員による外部講演

実方葉子

- 1月30日 東京国立博物館国際シンポジウム トークセッション
「日本美術がつなぐ博物館コミュニティ／ポスト・コロナ時代の挑戦」
9月30日 NHK カルチャー梅田出講
「木島櫻谷 美の世界 ～そのデザイン性を探る～」

野地耕一郎

- 7月24日 大倉集古館『FUSION ～間島秀徳 Kinesis/ 水の宇宙&大倉コレクション～』関連イベント
間島秀徳氏との Special トーク・セッション
9月4日 神戸市立小磯記念美術館
「住友コレクション名品選 ―フランスと日本近代洋画展」記念講演会

椎野晃史

- 6月6日 Festival de l'histoire de l'art (国際美術史祭、フランス開催・リモート参加)
「近代日本画家の選択 ―伝統と西洋のモデルの間で」

山本 堯

- 2月20日 第89回漢字学研究会招待講演
「鑄造技術からみた殷周金文の製作とその特質」
5月25日 小樽商科大学「醍醐ゼミナール」
「殷周青銅器をめぐる日中近代史」
6月20日 京都市・歴史館 府民協働連続講座
「中国古代の瑞獣たち ―その起源と東アジアへの流伝―」
9月27日 東京学芸大学公開講座「中国古代の青銅器銘文（金文）からみた社会と文化」
「青銅器のライフストーリーと社会」

2. 外部機関への協力：大学への出講

野地耕一郎

- | | | |
|-------|------------|-----------------|
| 成城大学 | 博物館実習（美術史） | 2021年4月～2022年3月 |
| 学習院大学 | 美術史講義 | 2021年9月～2022年3月 |

3. 近隣美術館・施設との連携

- 野村美術館相互割引企画「京都東山 美術館さんぽ」（秋季企画展）（京都）
ARK Hills Music Week 2021 参加（10/6 カフェミュージックコンサート）（東京）

4. 広報活動

・本館（京都）：新聞、テレビ等を通じたの広報

「鑄物・モダン－花を彩る銅のうつわ－」展（主催 京都新聞）

- 1月4日 京都新聞朝刊「2021年の本社主催事業」
- 2月14日 京都新聞朝刊社告
- 3月5日 京都新聞夕刊社告・金曜インフォメーション
- 3月12日 京都新聞朝刊特集紙（全10段カラー）・タブロイド Irumiru
- 3月14日 京都新聞朝刊開幕記事
- 3月19日 京都新聞朝刊広告（全5段カラー）
- 4月4日 京都新聞朝刊 情報ワイド
- 4月6日 読売新聞朝刊
- 5月14日 産経新聞夕刊
- 3月1日 日本女性新聞特集記事
- 3月17日 J:COM「ジモト応援！つながるNEWS」
- 4月11日 NHK Eテレ「日曜美術館アートシーン」

緊急事態宣言による展覧会休止社告：京都新聞朝刊 4月25日休止告知・5月12日再開告知

「ゆかた 浴衣 YUKATA すずしきのデザイン、いまむかし」展（主催 朝日新聞社・京都新聞）

- 4月30日 京都新聞朝刊社告
- 5月21日 京都新聞夕刊 金曜インフォメーション
- 5月25日 朝日新聞朝刊社告
- 5月25日 奈良新聞朝刊
- 5月28日 京都新聞夕刊社告
- 6月1日 朝日新聞朝刊社告（カラー）
- 6月2日 京都新聞朝刊特集紙（全10段カラー）
- 6月5日 朝日新聞夕刊帯告知
- 6月5日 朝日新聞朝刊 開幕記事
- 6月6日 京都新聞朝刊 開幕記事
- 6月18日 京都新聞タブロイド Irumiru
- 6月22日 京都新聞広告（全5段カラー）
- 6月23日 毎日新聞朝刊（半10段カラー）
- 6月27日 京都新聞朝刊 情報ワイド（全10段カラー特集）
- 6月29日 朝日新聞朝刊社告（西日本版）
- 7月1日 京都新聞朝刊 情報ワイド／朝日友の会「アサヒメイト」7月号
- 7月3日 毎日新聞夕刊
- 7月13日 朝日新聞夕刊「伊勢型紙研究会開催記事」
- 7月13日 大阪日日新聞「美術いま関西で」（半6段）
- 6月4日 NHK 京都放送局「京いちにち」
- 6月25日 NHK 大阪拠点放送局「関西ラジオワイド」

「泉屋ビエンナーレ 2021 Re-sonation ひびきあう聲」展（主催 住友グループ各社・京都新聞）

- 9月5日 京都新聞朝刊特集紙（全10段カラー）
- 9月8日 京都新聞朝刊社告
- 9月10日 京都新聞タブロイド Irumiru
- 9月11日 京都新聞朝刊開幕記事
- 9月14日 朝日新聞夕刊
- 9月19日 京都新聞朝刊 情報ワイド（3/2 10段カラー特集）

- 9月27日 京都新聞朝刊 情報ワイド
- 10月7日 京都新聞朝刊広告 (カラー半5段)
- 10月7日 毎日新聞朝刊 カラー特集面 (木鳥櫻谷展とともに)
- 10月9日 毎日新聞夕刊
- 10月22日 京都新聞夕刊 金曜インフォメーション
- 11月2日 京都新聞夕刊社告
- 11月18日 京都新聞朝刊広告 (全面 (全15段) カラー)
- 9月24日 KBS 京都「きらきん!」ワダちゃんねる生中継
- 11月20日 作家によるインスタライブ

「木鳥櫻谷 四季の金屏風—京都画壇とともに」展 (主催 京都新聞)

- 8月13日 京都新聞朝刊社告
- 8月26日 奈良新聞朝刊
- 9月4日 京都新聞夕刊社告・タブロイド Irumiru
- 9月8日 京都新聞朝刊特集紙 (全10段カラー)・デジタルサービス告知
- 9月10日 京都新聞夕刊 金曜インフォメーション
- 9月12日 京都新聞開幕記事
- 9月20日 京都新聞朝刊ミュージアムガイド
- 9月24日 京都新聞「きらっと京滋」10月号
- 10月4日 京都新聞朝刊ミュージアムガイド
- 10月5日 京都新聞朝刊広告 (全5段カラー)
- 10月7日 毎日新聞朝刊 カラー特集面 (ビエンナーレ展とともに)
- 10月17日 京都新聞朝刊 情報ワイド (3/2 10段カラー特集)
- 10月1日 産経新聞夕刊
- 9月11日 KBS 京都「京都新聞ニュース」

「伝世の茶道具—珠玉の住友コレクション」展 (主催 日本経済新聞社・京都新聞)

- 9月20日 日経新聞朝刊アートライフ
- 10月6日 京都新聞朝刊社告
- 10月18日 日経新聞朝刊アートライフ
- 11月3日 京都新聞朝刊特集紙 (全10段カラー)
- 11月5日 京都新聞夕刊社告・タブロイド Irumiru
- 11月7日 京都新聞朝刊開幕記事
- 11月8日 京都新聞朝刊 情報ワイド
- 11月19日 京都新聞タブロイド Irumiru
- 11月25日 京都新聞朝刊 情報ワイド
- 11月26日 京都新聞夕刊 金曜インフォメーション
- 12月3日 産経新聞夕刊「金曜日は遊演知」
- 日経 REVIVE11月号
- YouTube「キャンベルの四の五のYOUチャンネル」
- 11月7日 KBS 京都「京都新聞ニュース」
- 11月15日 J:COM「ジモト応援!つながるNEWS」(地デジ11ch)

その他

- ウェブ THE KYOTO 執筆掲載 (実方)
- JR 東海「そうだ 京都、行こう」インスタグラム 庭園紹介
- テレビ KBS 京都「京是好日」青銅器展紹介

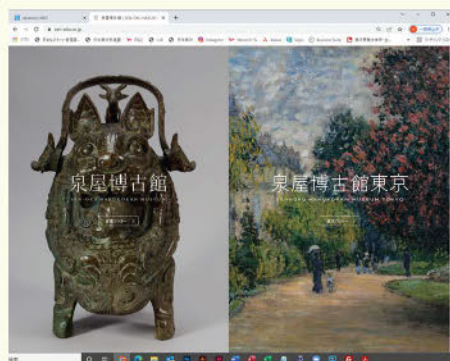
・東京館：リニューアルオープンに向けた広報活動

4月に「泉屋博古館分館」から「泉屋博古館東京」への館名変更および、改修工事についてプレスリリースを行い、併せて当館公式ウェブサイトに掲載した。

10月に東京館リニューアルオープン告知および年間の展覧会予定をリリース（ウイングダム社が事務局となり都内私立館5館で共同発送）。併せてウェブサイト上にもリニューアルオープン事前告知を掲載した。カフェのオープンも話題となり、ウェブメディアを中心にリニューアルオープンに関する情報が掲載された（「ウェブ版美術手帖（10/26付）」、「Fashion Press（10/26付）」ほか）。

・公式ウェブサイトリニューアル

泉屋博古館分館改称に伴い、広報活動の幅を拡げるべく8月に公式ウェブサイトを刷新した。新しいウェブサイトはレスポンス対応を採用、館職員による情報更新が可能な仕様とし、プレスリリース掲載ページを新設したことで、両館ともにリリース情報を常時発信できる体制が整った。



新公式ウェブサイトトップページ（PC）

・SNSを活用した広報活動

京都 フェイスブック投稿（展覧会・作品・イベント紹介等）128回

ツイッター（展覧会・作品紹介、館近況報告等）626回

インスタグラム（展覧会・作品・イベント紹介等）96回

東京 フェイスブック投稿（作品紹介等）32回

ツイッター（作品・イベント紹介等）90回

インスタグラム（7月開始・作品紹介等）17回

当館で活動するボランティア

《青銅器解説ボランティア》

2020年度に続き、2021年度も新型コロナウイルス感染症拡大のため、青銅器解説ボランティアは活動休止した。

青銅器解説ボランティアの技能維持のため1月28日にフォローアップ研修を行った。また不足する人員を確保するため全12回の新人研修を予定した。うち10回（4月9・21日、5月14・21日、6月3・11・25日、7月16日、8月6日、10月28日）は実施、4月下旬の緊急事態宣言発出により、残り2回は2022年に繰り延べた。

2021年未現在、ボランティアは33名が登録中（稼働中24名、新人研修中9名）。

またボランティアの一部は7月27日実施の消防訓練にも参加した。



新人研修



消防訓練の様子

《監視ボランティア》

2021年はすべての展覧会で監視ボランティアを配置した。人員はいずれも虹の会及び文化市民ボランティアより募集した。途中、緊急事態宣言の発出により臨時休館した期間もあったが、通常の監視・展示ケースの清掃のほか、感染症対策として手袋着用の上、アルコールによる手すりの消毒などの業務を行った。

新型コロナウイルス感染症対策

昨年度に引き続き、京都府の新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインに従って、来館者に対し以下を実施した。

- ・ 入口での連絡先記帳または「京都市新型コロナあんしん追跡サービス」への登録（任意）
- ・ マスク着用、手指消毒、検温、分散観覧、屋内での会話自粛などへの協力呼びかけ
- ・ 入館半券の裏面に来観日のスタンプ押印
- ・ 換気のため企画展示室の扉を開放
- ・ 展示室での列品解説に換え、講堂で着席スタイルの作品解説を実施。青銅器館解説ボランティアの休止継続
- ・ 手すりなどの重点的な清掃

2021年度施設工事

- ・ 本館2号館ロビー空調工事（京都）

2号館竣工（1986年）以来使用してきたが、今般使用している冷媒が生産終了となった。故障時の対応が困難となるため、空調装置を更新した（5,087千円）。

《泉屋博古館東京》リニューアルオープン

2021年4月に泉屋博古館分館は「泉屋博古館東京」に館名を変更した。
新装なった泉屋博古館東京では、展示室の増設・拡充、講堂・カフェの新設などを行い、
2022年3月19日のリニューアルオープンに向け着々と準備を進めている。



泉屋博古館東京外観

ロゴマークをあしらった館名板を設置した。



レセプション



ホール

非日常空間への導入部として、正面に象徴展示を配した。



リニューアル後の展示室



講堂（新設）

コロナ禍により規模縮小となったが、オープンに先駆けて文化イベントを開催した。

（下左右）カフェ（新設）

HARIO CAFE 泉屋博古館東京店として10月1日にオープンした。



泉屋博古館設立の目的

当館は、住友家の収集にかかる古代青銅器を中心とする国宝、重要文化財等の美術工芸品および当館が取得した文化財の保存および公開、並びにこれらに関する調査研究を行い、学術研究の発展を図り、もって我が国の文化の向上と文化財の保護に寄与することを目的としております。

泉屋博古館の事業

当館は、上記目的を達成するため、次の事業を行います。

- (1) 美術工芸品の収集、保存および公開
- (2) 美術工芸品に関する調査研究、紀要、解説書、図録などの発行
- (3) 美術工芸品に関する研究会、講演会等の開催
- (4) 美術館の設置、運営
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

賛助会員 2021年12月31日現在

特別法人会員

住友化学株式会社	住友重機械工業株式会社
株式会社三井住友銀行	日本製鉄株式会社
住友金属鉱山株式会社	住友商事株式会社
三井住友信託銀行株式会社	住友生命保険相互会社
株式会社住友倉庫	住友電気工業株式会社
三井住友海上火災保険株式会社	日本板硝子株式会社
日本電気株式会社	住友不動産株式会社
住友大阪セメント株式会社	三井住友建設株式会社
住友ベークライト株式会社	住友林業株式会社
住友ゴム工業株式会社	大日本住友製薬株式会社

法人会員 (50音順)

株式会社関西C・I・C研究所	株式会社薬研社
ワケンホールディングス株式会社	

個人会員 (敬称略、50音順)

足立康庸	熊澤保夫	古賀邦正	谷水雄三	藤見知愛子
武藤治太	村瀬町子	森重文	山田康之*	

*) 長きにわたってご支援いただきました山田康之氏には2021年8月ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

役員・評議員

2021年12月31日現在

理事長	奥 正 之	三井住友フィナンシャルグループ名誉顧問
常務理事	北 野 幸 広	住友成泉社長
理 事	遠 藤 信 博	日本電気会長
	岡 村 秀 典	京都大学教授
	小野寺 研一	住友不動産会長
	熊 倉 功 夫	MIHO MUSEUM 館長
	家 守 伸 正	住友金属鉱山名誉顧問
	酒 井 忠 康	世田谷美術館長
	佐々木 丞平	京都国立博物館名誉館長
	佐 藤 義 雄	住友生命保険特別顧問
	住友 吉左衛門	住友財団理事長
	常 陰 均	三井住友信託銀行特別顧問
	十 倉 雅 和	住友化学会長
	中 村 邦 晴	住友商事会長
	西 上 実	京都国立博物館名誉館員
	廣 川 守	泉屋博古館長
	松 本 正 義	住友電気工業会長
監 事	磯野 與志嗣	税理士
	秦 喜 秋	三井住友海上火災保険名誉顧問
	中 村 吉 伸	住友重機械工業相談役
評 議 員	新 井 英 雄	三井住友建設会長
	池 田 育 嗣	住友ゴム工業会長
	小 野 孝 則	住友倉庫社長
	下 谷 政 弘	住友史料館長
	住 友 信 夫	
	関 根 福 一	住友大阪セメント会長
	多 田 正 世	大日本住友製薬会長
	出 川 哲 朗	大阪市立東洋陶磁美術館長
	友 野 宏	日本製鉄社友
	林 茂	住友ベークライト会長
	馬 淵 明 子	前国立西洋美術館長
	森 重 樹	日本板硝子社長
	矢 野 龍	住友林業最高顧問

法人概要

貸借対照表

2021年12月31日現在

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	71,817,028	220,202,930	-148,385,902
棚卸資産	9,717,290	6,920,910	2,796,380
前払金	3,265,714	2,089,733	1,175,981
前払費用	654,804	1,382,328	-727,524
立替金	10,303	324,702	-314,399
未収金	6,440,462	2,261,098	4,179,364
流動資産合計	91,905,601	233,181,701	-141,276,100
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
美術品	6,419,958,720	6,416,102,120	3,856,600
土地	2,882,732,000	2,882,732,000	0
投資有価証券	2,429,279,200	2,946,392,700	-517,113,500
基本財産合計	11,731,969,920	12,245,226,820	-513,256,900
(2) 特定資産			
営繕積立資産	7,513,199	7,513,199	0
基本財産購入積立資産	14,773,807	14,773,807	0
保存公開事業積立資産	3,002,700	3,002,700	0
調査研究事業積立資産	20,431,000	20,431,000	0
株式	188,551,500	155,731,500	32,820,000
株式取得資金	73,221,817	73,221,817	0
建物	0	563,879,141	-563,879,141
構築物等	500,095	2,905,215	-2,405,120
特定資産合計	307,994,118	841,458,379	-533,464,261
(3) その他固定資産			
建物	1,347,151,708	87,743,023	1,259,408,685
その他	266,065,433	18,481,476	247,583,957
長期前払費用	0	746,314	-746,314
建設仮勘定	0	554,496,505	-554,496,505
商標権仮勘定	2,112,000	0	2,112,000
その他固定資産合計	1,615,329,141	661,467,318	953,861,823
固定資産合計	13,655,293,179	13,748,152,517	-92,859,338
資産合計	13,747,198,780	13,981,334,218	-234,135,438
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	20,367,333	69,512,707	-49,145,374
預り金	1,829,482	1,489,505	339,977
前受金	55,000	0	55,000
流動負債合計	22,251,815	71,002,212	-48,750,397
2. 固定負債			
敷金	960,000	0	960,000
その他固定負債	24,798,667	24,553,136	245,531
固定負債合計	25,758,667	24,553,136	1,205,531
負債合計	48,010,482	95,555,348	-47,544,866
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
基本財産 美術品	6,416,028,120	6,415,508,120	520,000
基本財産 土地	0	2,882,732,000	-2,882,732,000
特定資産 建物	0	563,879,141	-563,879,141
特定資産 構築物等	500,095	2,905,215	-2,405,120
受取補助金	952,000	0	952,000
指定正味財産合計	6,417,480,215	9,865,024,476	-3,447,544,261
(うち基本財産への充当額)	(6,416,028,120)	(9,298,240,120)	(-2,882,212,000)
(うち特定資産への充当額)	(500,095)	(566,784,356)	(-566,284,261)
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	7,281,708,083	4,020,754,394	3,260,953,689
(うち基本財産への充当額)	(5,315,941,800)	(2,946,986,700)	(2,368,955,100)
(うち特定資産への充当額)	(307,494,023)	(274,674,023)	(32,820,000)
正味財産合計	13,699,188,298	13,885,778,870	-186,590,572
負債及び正味財産合計	13,747,198,780	13,981,334,218	-234,135,438

法人概要

正味財産増減計算書

2021年1月1日から2021年12月31日まで

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	51,164,066	66,916,236	-15,752,170
特定資産運用益	8,504,584	7,044,598	1,459,986
入場料	9,109,030	7,562,318	1,546,712
事業収益	11,571,521	7,207,983	4,363,538
受取補助金等	6,581,894	2,621,564	3,960,330
受取寄付金	166,260,000	120,810,000	45,450,000
補助金等	790,085	36,123,594	-35,333,509
寄付金	43,344,488	2,692,726	40,651,762
指定正味財産からの振替額			
雑収益			
経常収益計	297,325,668	250,979,019	46,346,649
(2) 経常費用			
事業費			
展覧会費	50,381,503	23,403,363	26,978,140
美術品修繕費	4,130,882	3,204,181	926,701
調査研究費	5,638,634	5,018,726	619,908
広告宣伝費	3,907,816	2,873,123	1,034,693
給与費	79,292,279	69,168,034	10,124,245
雑給	3,947,114	2,683,593	1,263,521
旅費交通費	4,715,290	3,623,283	1,092,007
通信運搬費	989,938	810,353	179,585
光熱水道費	8,203,119	5,798,292	2,404,827
消耗品費	12,172,444	3,204,187	8,968,257
保守費	17,418,843	13,810,294	3,608,549
賃借料	12,329,398	18,313,407	-5,984,009
分館増改築関連費用	25,000,010	20,454,180	4,545,830
支払寄付金	0	0	0
雑費	452,053	1,058,044	-605,991
特定資産減価償却費	790,085	34,311,450	-33,521,365
その他固定資産減価償却費	68,580,275	10,904,371	57,675,904
事業費計	297,949,683	218,638,881	79,310,802
管理費			
給与費	39,988,426	34,916,161	5,072,265
旅費交通費	1,743,198	1,144,190	599,008
通信運搬費	1,448,803	1,624,708	-175,905
光熱水道費	4,113,161	2,907,854	1,205,307
消耗品費	3,378,878	1,433,505	1,945,373
保守費	7,722,756	6,576,911	1,145,845
賃借料	14,616,294	709,376	13,906,918
委託費	10,935,057	3,347,790	7,587,267
分館増改築関連費用	2,190,610	1,884,182	306,428
雑費	2,698,780	1,700,247	998,533
特定資産減価償却費	0	1,242,344	-1,242,344
その他固定資産減価償却費	4,750,993	798,935	3,952,058
管理費計	93,586,956	58,286,203	35,300,753
経常費用計	391,536,639	276,925,084	114,611,555
評価損益等調整前当期経常増減額	-94,210,971	-25,946,065	-68,264,906
基本財産評価損益等	-28,676,500	266,459,520	-295,136,020
特定資産評価損益等	32,820,000	-26,795,649	59,615,649
投資有価証券評価損益等	0	0	0
評価損益等計	4,143,500	239,663,871	-235,520,371
当期経常増減額	-90,067,471	213,717,806	-303,785,277
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
指定正味財産からの振替額	3,448,226,176	0	3,448,226,176
経常外収益計	3,448,226,176	0	3,448,226,176
(2) 経常外費用			
その他固定資産除却損	97,205,016	3,159,723	94,045,293
経常外費用計	97,205,016	3,159,723	94,045,293
当期経常外増減額	3,351,021,160	-3,159,723	3,354,180,883
当期一般正味財産増減額	3,260,953,689	210,558,083	3,050,395,606
一般正味財産期首残高	4,020,754,394	3,810,196,311	210,558,083
一般正味財産期末残高	7,281,708,083	4,020,754,394	3,260,953,689
II 指定正味財産増減の部			
固定資産受贈益	520,000	0	520,000
受取補助金	952,000	0	952,000
一般正味財産への振替額	-790,085	0	-790,085
一般正味財産への振替額	-3,448,226,176	-36,123,594	-3,412,102,582
当期指定正味財産増減額	-3,447,544,261	-36,123,594	-3,411,420,667
指定正味財産期首残高	9,865,024,476	9,901,148,070	-36,123,594
指定正味財産期末残高	6,417,480,215	9,865,024,476	-3,447,544,261
III 正味財産期末残高	13,699,188,298	13,885,778,870	-186,590,572

泉屋博古館蔵品紹介

第5回 茶道具

泉屋博古館東京では、生活の場を彩る様々な工芸作品を所蔵していますが、その中でも特徴的なコレクションが茶道具類です。昭和60年（1985）から数回に渡り、住友家伝来の茶道具コレクションが寄贈され、歴代当主が愛蔵した道具類に触れることができます。

江戸時代、住友家では大坂にある銅吹所に訪れた客人への供の一環として、茶の湯をとりいれ、当主自らも茶道を嗜み客人をもてなしました。茶道具を収集した人物としては、裏千家八世又玄齋好みの道具を集めた五代友昌（1705 - 58）、小堀遠州遺愛の茶碗《小井戸茶碗 銘 六地藏》を入手した十二代友親（1843 - 90）、江戸時代初期の後陽成天皇が命銘した唐物茶入《唐物文琳茶入 銘 若草》などを収集した十五代友純（号 春翠：1864 - 1926）が挙げられます。

小井戸茶碗の名品として名高い《六地藏》を入手した十二代友親は、慶応元年（1865）、23歳で十二代として家督を相続、幕末から明治時代にかけて、家業の難局を乗り越えた人物でした。一方で、文芸を好み、多くの文化人と交遊した人物です。《六地藏》は、長らく小堀家に伝世していましたが、友親が晩年に入手します。残念ながら、在命中はこれを使う機会を得ぬままとなってしまいます。秘蔵となった《六地藏》が再び脚光を浴びたのは、春翠の時でした。

明治・大正期は、数寄者と呼ばれる政財界で同好の士と茶の湯を楽しむ人々が多く輩出された時代であり、春翠もその一人として知られています。春翠は中国文化に造詣が深く、文人の清雅な美意識にかなったものを取りわけ好みました。《唐物文琳茶入 銘 若草》はその代表格といえます。明治時代末期頃から、春翠は幼少時に慣れ親しんだ日本の伝統美術に心惹かれるようになります。自らの美意識に適った茶道具を取り合わせて、歴史に残る名茶会を度々催しました。

《六地藏》は大正8年（1919）友親の30回忌の追善茶会で披露されました。大阪・茶白山にある住友本邸の好日庵で行われたこの茶会では、比叡山延暦寺ゆかりの《大講堂釜》、京都の真如堂東陽坊ゆかりの《瀬戸肩衝茶入 銘 真如堂》など、お寺に伝来したお道具を取り合わせ、先代への追善の意を表しました。春翠は好んだ道具には仕覆を誂え、自らその来歴などを記し、愛蔵印を捺しました。

泉屋博古館の茶道具展へお越しの際は、大切な茶道具と共に受け継がれた仕覆や箱書などの付属品もお楽しみください。

（森下愛子）



《唐物文琳茶入 銘 若草》
南宋～元時代・13～14世紀

江戸時代初期の大名茶人、小堀遠州の書付を伴う唐物茶入。中国・元時代（1352年）の紀年銘をもつ《堆朱樓閣人物図盆》が付属する。

《小井戸茶碗 銘 六地藏》
朝鮮時代・16世紀

明るい枇杷色の総体と、高台周りの釉景色が特徴の小井戸茶碗。小堀遠州が京都伏見の六地藏で入手したことが銘の由来とされる。



《瀬戸肩衝茶入 銘 真如堂》 江戸時代・17世紀

小堀遠州命銘の茶入。茶入を入れる仕覆4種（モール・白地牡丹唐草文金襴・八左衛門間道・富田金襴）、替え蓋、挽家などが付属する。

本館（京都）

展覧会名	期間	入館者数			
		有料	優待	計	1日平均
特別展 鑄物・モダン —花を彩る銅のうつわ—	3/13～4/24 5/12～5/16 (41日間)*1	802	1,261	2,063	50
特別展 ゆかた 浴衣 YUKATA —すずしさのデザイン、いまむかし—	6/5～7/19 (39日間)	3,176	2,825	6,001	154
企画展 木島櫻谷 四季の金屏風 —京都画壇とともに—	9/11～10/24 (38日間)	4,227	3,777	8,004	211
企画展 伝世の茶道具 —珠玉の住友コレクション—	11/6～12/12 (32日間)	4,210	3,649	7,859	246
青銅器館 中国青銅器の時代 泉屋ビエンナーレ 2021 Re-sonation ひびきあう聲	上記に同じ 9/11～10/24 11/6～12/12				
2021 年度入館者計	150 日間	52% 12,415	48% 11,512	対前年比 +2,420 23,927	175

*1 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言発出により 4/25～5/11 休館した。

2022 年展覧会予定

本館（京都）

旅スル絵画 —住友コレクションの文人画	3月26日 - 5月15日
漆 —東洋の美を彩る素材	5月28日 - 7月3日
特別展 生誕 150 年記念 板谷波山の陶芸	9月3日 - 10月23日
特別展 木島櫻谷 —旅・風景・山水（仮）	11月3日 - 12月18日

東京館

リニューアルオープン記念展Ⅰ 日本画トライアングル 画家たちの大阪・京都・東京	3月19日 - 5月8日
リニューアルオープン記念展Ⅱ 光陰礼讃 —モネからはじまる住友洋画コレクション	5月21日 - 7月31日
リニューアルオープン記念展Ⅲ 古美術逍遙 —東洋へのまなざし	9月10日 - 10月23日
特別展 生誕 150 年記念 板谷波山の陶芸	11月3日 - 12月18日